

SUPPORTING STAFF OF THE YEAR WOMAN

サポーター・オブ・ザ・イヤー ウーマン

大学スポーツを支援することで、大学スポーツの振興に寄与した個人を表彰する。

優秀賞

五十音順



岡 知里

鹿屋体育大学
Blue Winds
学生マネジメントスタッフ

Blue Winds学生マネジメントスタッフとして、大学スポーツイベントの企画・運営を牽引してきた。カレッジスポーツディ特別回では全3競技に関わり、調整役として運営の中心を担った。その際に、デザイン制作や参加者対応にも力を発揮し、イベントの魅力向上に寄与している。また、障がい者スポーツイベントや地域の高齢者運動教室にも取り組み、スポーツを身近にする活動を継続している。



小保方 愛香

中央大学
体育連盟女子ラクロス部

中央大学法学部法律学科法曹コースに在籍し、学業・競技支援・学内外での活動を高い水準で両立。体育連盟女子ラクロス部ではスタッフとして選手を支え、応援文化の醸成や観戦機会の創出を主導した。学業面では、憲法・行政法・民事訴訟法の三分野でゼミに所属し、複数の論文執筆を通じて法的思考力を磨いた。さらに大学スポーツ協会（UNIVAS）学生スタッフとして取材・発信を行い、大学スポーツの価値を社会に届けてきた。



柿崎 未羽

早稲田大学
水泳部水球部門女子

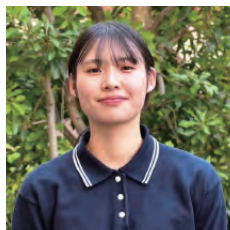
水球部門女子でトレーナーとして活動。ウエイトトレーニング、アップやケア、リコンディショニングなどの作成・指導を通して多方面からサポート。その一方で自身はスポーツクライミングの選手として国内外の試合に出場。また学業にも励み、授業に加えて、トレーナー資格の取得や外部での自主的な学びも積極的に行った。部活でのトレーナー活動、学業、自身の選手活動の3つを両立し、全てに対して精力的に取り組んだ。



片岡 花菜

近畿大学
体育会近大スポーツ編集部

法学部法律学科行政コースに在籍しながら、近大スポーツ編集部の編集長として体育会47団体の広報活動に尽力している。全国各地の大会取材、SNS発信、年4回の新聞発行を通じて体育会の魅力を広く伝え、新入部員増加にも貢献した。学業と広報活動の両立という困難な状況下でも、各クラブとの信頼関係構築を大切にし、体育会全体の活性化に貢献している学生である。



神山 侑奈

関西学院大学
体育会フェンシング部
会計・副将

関西大会にて優勝に導いた副将、会計担当として、体育会フェンシング部をまとめ上げた。学業面でも主体的な学びを徹底し、競技との両立を実現。文武両道を体現し、大学スポーツの発展に大きく寄与している。



鳥山 梓希

駒澤大学
体育会卓球部

駒澤大学卓球部の女子マネージャーとして、日々の運営支援や対外調整に力を尽くし、チームの関東リーグ戦1部昇格を陰で支えてきた。学業面では地域環境の研究に励むとともに、気象予報士試験の学科試験に合格し、現在も資格取得に向けて挑戦を続けている。選手や監督から厚い信頼を寄せられており、学業と競技サポートの両立に努める姿は、大学スポーツにおける理想的なサポーター・オブ・ザ・イヤーの姿といえる。

優秀賞

五十音順



堀 みさき

山梨学院大学
女子サッカー部

関東女子サッカーリーグ2部のスタメン選手としてリーグ優勝及び1部昇格に大きく貢献。主務として部活動の運営（審判活動の取りまとめ、幹部会開催等）にも尽力。67名の大所帯をまとめ、円滑なコミュニケーションを図りチームを支えた。学業も優秀であり、本年GPA最高評価を取得。目標の公務員試験にも合格し、文武両道を体現。地域においても、山梨県サッカー協会女子委員会に出席し、女子サッカーの発展のために貢献した。



三輪 日奈多

新潟医療福祉大学
女子バレーボール部

アナリストとして、試合データ分析や映像編集、戦術資料作成から練習支援、広報活動まで幅広く担っている。1年次途中からアナリストの道に進み、研修や他大学・トップリーグでの学びを重ね、チームに不可欠な存在へと成長した。今年度はリーグ戦優勝、皇后杯ファイナルラウンド出場に大きく貢献。常に「チームの勝利」を最優先に考え、主体的に支え続ける姿勢は、サポーター・オブ・ザ・イヤーの模範である。

入賞

五十音順

伊藤 瑠愛

中京学院大学
女子ソフトボール部

大石 和佳奈

中京大学
学生広報スタッフ「ライト」

川戸 彩羽

中京大学
体育会アメリカンフットボール部

津田 梓

法政大学
スポーツチャンバラ薗剣会

永井 紫帆

帝京平成大学
女子サッカー部

並木 汐音

明治学院大学
一般社団法人大学スポーツ協会

原田 葵

日本大学
ローテートサーフィンクラブ

吉次 彩恵

中京大学
卓球部

SUPPORTING STAFF OF THE YEAR MAN

サポーター・オブ・ザ・イヤー マン

大学スポーツを支援することで、大学スポーツの振興に寄与した個人を表彰する。

優秀賞

五十音順



萩原 晃希

関西学院大学
体育会アイスホッケー部

入部当初より高い身体能力と競技理解力を発揮し、1年次から即戦力として活躍した。脳震盪による離脱を乗り越え復帰し、第48回総合関関戦での関西大学撃破に貢献。4年次に選手引退を余儀なくされた後も、学生コーチとして技術・生活両面からチームを支え、37年ぶりの関西制覇と全日本選手権初出場を後押しした。困難に直面しても前向き、己を犠牲にしてチームのために尽力する彼はチームにとって必要不可欠な存在である。



久保田 高德

立命館大学
体育会バドミントン部

バドミントンの競技力向上のみならず、組織運営と地域連携にも挑戦している。大阪府茨木市教育委員会と協働し、学生主体で中学生を指導する地域クラブを創設するなど、大学スポーツを教育と社会貢献の場へと発展させた。部で主務を担いながらも学業を疎かにせず、教職課程の学びを地域で実践している。今後もスポーツと教育の力で人と地域をつなぎ、新たな大学スポーツの在り方を示していくことが期待される。



里見 日陽

愛知学院大学
ウエイトトレーニング部

一競技者としてバーベルの重さを競うだけでなく、組織運営の責任も担う学生理事長という役職を務めている。全日本学生パワーリフティング連盟理事および中部学生パワーリフティング連盟理事長として、企業協賛や競技会場の調整、医療体制の構築まで大会運営を総合的に指揮してきた。利害の異なる関係者をつなぎ、最適解を導く調整力が強みとし、競技・運営・学業を同時に走り切る姿勢で、学生スポーツの未来を支えています。



野寄 玲門

岐阜協立大学
陸上競技部

主務、GKUディレクター、東海学生陸上競技連盟幹事として、競技会運営から選手サポートまで幅広い役割を担い、大学スポーツを支えてきた。大学主催競技会の責任者として大会運営を統括し、正確性・安全性を重視した運営に努め、大会全体の質向上に貢献した。また自らも競技者として努力を続け、4年次には東海インカレで自己記録を更新して男子走高跳6位入賞を果たした。



東 晃司

早稲田大学
米式蹴球部

早稲田大学米式蹴球部の主務として200人近くの部員をまとめ、関東学生アメリカンフットボール連盟では加盟79校の学生委員長として多彩な能力を発揮した。冷静で視野が広く、企画立案に加えて実行力や行動力にも優れる。人望が厚く、女子が多い学連執行部で13年ぶりに男子の委員長として就任した。温厚な性格とは裏腹に、競技に対する熱い想いをもち、大学でも学連でも現状に満足することなく、常により良いものを追求している。



松尾 悠太

環太平洋大学
陸上競技部

2年越しの自己ベスト更新を果たした努力家であり、広報や国際交流、女子チームの支援など、多彩な活動で部を支えた唯一無二のサポーターである。SNSでのPRや海外選手との交流、女子選手のサポートなど、彼の献身的な行動はチームの力に直結した。文武両道を貫き、春からは地元大分で小学校の先生として教壇に立つ。中間の頑張りがみんなに届くよう走り続けた、チームが誇るかけがえのない存在である。

優秀賞

五十音順



村司 翔平

関西学院大学
硬式野球部

関西学生野球連盟史上初の「選手兼学生審判」として新たな挑戦を続け、大学野球界に大きな変革をもたらした。選手としての活動と並行し、高度な審判技術を習得し、公式戦審判としての活躍は、当連盟での学生審判制度の正式導入につながる大きな一歩となった。また、競技力向上と組織発展の双方に貢献し、後輩にも多くの学びを残した。

入賞

五十音順

泉田 義智

愛媛大学
小太刀護身道部

今井 一樹

環太平洋大学
女子硬式野球部

高橋 龍之介

環太平洋大学
陸上競技部

平山 俊太

近畿大学
体育会バスケットボール部

藤田 光

九州産業大学
硬式野球部

松浦 虎太郎

関西学院大学
体育会拳法部 主務

森東 優

岡山大学
体育会ウエイトトレーニング部

ROOKIE OF THE YEAR WOMAN

ルーキー・オブ・ザ・イヤー ウーマン

学業及び競技成績や運動部活動への貢献を残して文武両道を実践する他の学生の模範となる1年生(新入学生)を表彰する。

優秀賞

五十音順



信濃 明梨

羽衣国際大学
テコンドー

小学1年生からテコンドーを始め、全日本テコンドーブムセ選手権大会では、2019年から出場する階級で6年連続優勝している。2025年も全日本強化指定選手として活躍、初出場の第19回全日本学生テコンドー選手権大会ではブムセ女子有段の部で優勝。武道精神のもと黙々と鍛錬する忍耐強さと、周りと協調しながら物事を進める傾聴姿勢があり、その精神力と行動力で今後の国際舞台での活躍が期待される。



高梨 帆南

順天堂大学
ライフセービング部

親がライフセービングを行っていたことから自身も早い段階から関心を持ち、高校1年時に「ベーシック・サーフライフセーバー」、大学1年時に「アドバンス・ライフセーバー」という資格を取得。ライフセービング界で同世代を牽引する選手である。全日本インカレでは1年生ながら個人種目のビーチフラッグスで3位になるなど、順天堂大学的女子総合3位に貢献した。



谷 清美

新潟医療福祉大学
水泳部

水泳部唯一の女子WS選手として、入学直後から国内トップレベルで活躍するルーキーである。怪我により思うように練習できない期間もあったが、コンディショニングや振り返りを重ね、OWS日本選手権・インカレ・国スポで入賞を果たした。日本代表として海外遠征も経験し、その学びをチームに還元している。学業面でも好成績を維持し、競技と学習を両立する姿勢は将来を嘱望される存在である。



平山 楓梨

仙台大学
女子硬式野球部

6歳から兄の影響で野球を始め、小学校は野球部に所属。また女子軟式野球チームを掛け持ちしていた。中学校時代は男子に混じり軟式野球部に所属。高校は福島県の学法石川高校に進学し、創部3年目ながら全国高等学校女子硬式野球選手権大会で決勝トーナメントに進出しベスト16。仙台大学に進学し、1年目で大学日本一に輝いた。侍ジャパン女子日本代表にも選出され、アジアカップ4連覇に貢献した。



本田 彩衣

甲南大学
硬式庭球部

地域の清掃活動やジュニア指導、ストリートテニス普及などに積極的に取り組み、地域貢献を実践している。戦績では1年生ながら春の関西学生選手権ベスト8、リーグ戦1番手としてチームを牽引し存在感を発揮、関西学生選手権ではベスト4の成績を収めた。学業も主体的に学び、社会調査を通じて社会課題への理解を深めている。競技・学業・社会貢献の全てに真摯に向き合う姿勢は、甲南大学の体育会が目指すビジョンを体現している。



山崎 愛佳

上智大学
スポーツチャンバラ剣会

全国のスポーツチャンバラ新人女子選手の中で、最多の入賞成績を記録した。全日本学生大会では、新人女子選手の中で唯一の2種目優勝を達成している。毎日4時間の練習をこなしながら、上智大学において上位の成績を維持している。また、帰国子女としての語学力を活かし、米軍士官学校の訪日団に通訳ボランティアとして帯同するなど、競技・学業・社会貢献の三領域で成果を上げている。

入賞

五十音順

加藤 真央

大阪体育大学
ハンドボール部(女子)

杉本 心結

青山学院大学
体育会陸上競技部(短距離ブロック)

椿原 梨央

山梨学院大学
女子柔道部

ROOKIE OF THE YEAR MAN

ルーキー・オブ・ザ・イヤー マン

学業及び競技成績や運動部活動への貢献を残して文武両道を実践する他の学生の模範となる1年生(新入学生)を表彰する。

優秀賞

五十音順



伊藤 大和

関西学院大学
体育会 馬術部

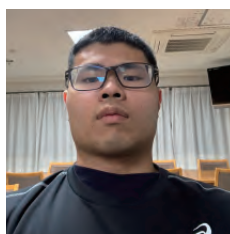
関西学生新人戦にて優勝した部員として、日々の活動に真面目に取り組んでいる。学業面でも自身の成績維持だけでなく、将来を見通した資格取得等にも積極的に取り組んでいる。感謝の心を忘れず、常に周囲への気配りを大切に、1年生ながら模範となる行動を示している。



木内 篤志

帝京平成大学
男子サッカー部

1年生ながら部の象徴的な存在として活躍している。入学後すぐに公式戦へ出場し、年間を通してスタメンとして攻守にわたり大きく貢献してきた。ポジションはミッドフィルダーとフォワードで、高い技術力を生かした攻撃に加え、献身的な守備も大きな持ち味となっている。さらに学業にも真摯に取り組むコース学年トップの成績を収めている。「関東リーグ昇格」を目標に、今後のさらなる成長と活躍が期待される。



座安 健太郎

早稲田大学
早大パーベルクラブ

パワーリフティング競技において「世界一」という高い目標を掲げ、日々の練習と大会経験を通して競技力の向上に努めている。部活動では一年生のまとめ役として組織運営にも貢献し、学業面では生理学やトレーニング科学を中心に理論と実践を結び付けた学習に主体的に取り組んでいる。また、社会活動の中では学生大会運営にも携わるなど、競技・学業・社会連携の各面で積極的に取り組んでいる。



西川 我咲

東洋大学
水泳部

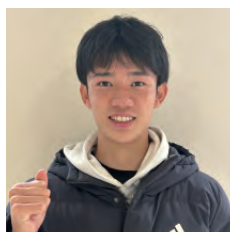
インカレ男子400m自由形優勝、400m個人メドレー 2位、ジャパンオープン同種目優勝(4分7秒67)などの実績を持つ。2025年夏に行われた世界水泳でも上位に入賞し、2028年に開催されるロス五輪での活躍も期待されている。



宮澤 優大

帝京平成大学
男子サッカー部

1年生ながら入学後すぐにスタメンとして出場し、守備的ミッドフィルダーやサイドバックなど複数ポジションをこなす万能さが大きな武器となっている。攻撃面でもコーナーキックから得点を挙げるなど存在感を発揮。日々の練習では積極的な声かけとプレーでチームの士気を高めている。学業でもコース学年トップの成績を収めている。目標は「関東リーグ昇格」で、将来的なチームリーダーとしての成長が期待される。



山鹿 快琉

育英大学
陸上競技部

男子800m競技では、関東インカレ優勝、日本インカレで唯一の1年生優勝者となるなど、卓越した実績を持つ新進気鋭のランナーである。日本選手権でも決勝進出・7位入賞を果たし、国際大会でも複数の2位入賞と、将来の日本中距離界を担う逸材である。学業・社会貢献にも意欲的で、大学を代表するルーキーとして大きな期待が寄せられている。

優秀賞

五十音順



吉田 泰造

日本体育大学
レスリング部

競技に真摯に向き合い、日々の練習や試合を通して「競技者」と「人」としての成長を大切にしてきた。大学では、基本を大切にする姿勢と仲間とのつながりを重視し、チームの一員として良い雰囲気づくりに努めている。また、地域活動やボランティアにも参加し、支えていただく方々への感謝を忘れずに、競技と学びの両立を続けながら、2028年ロス五輪での金メダル獲得を目指している。

入賞

五十音順

尾石 洋太郎

順天堂大学
男子ハンドボール部

加藤 貴士

大東文化大学
テコンドー部

神崎 竜輝

國學院大學
体育連合会スポーツチャンバラ武道会

櫻井 信人

岐阜協立大学
男子バレーボール部

ZHAN LINMAOXIN

羽衣国際大学
卓球

中崎 權斗

びわこ成蹊スポーツ大学
陸上競技部

長谷川 李博

中京学院大学
男子卓球部

横山 諒

青山学院大学
体育会少林寺拳法部

吉田 壮汰

帝京平成大学
男子柔道部



SPORTSMANSHIP OF THE YEAR

スポーツマンシップ・オブ・ザ・イヤー

運動部活動において、スポーツマンシップあふれるプレー・振る舞いを体現した個人または団体等を表彰する。



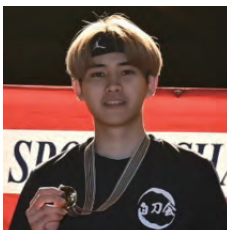
COACH OF THE YEAR

コーチ・オブ・ザ・イヤー

競技力向上と人材育成に尽力し、他の指導者の模範となる優れた取組や実績を残した指導者を表彰する。

優秀賞

五十音順



柿沼 駿

東洋大学
大学公認
スポーツチャンバラサークル
白刀会

誠実さと周囲への献身性をもち、スポーツチャンバラの大会では、正々堂々と戦うフェアプレーを貫いた。裏方としても新入生歓迎活動やゼミを主導し、組織の活性化に貢献してきた。

優秀賞

五十音順



上水 研一郎

東海大学
男子柔道部

東海大学体育学部教授で男子柔道部監督を務める。全日本学生柔道優勝大会で数々の優勝を重ね、五輪・世界選手権メダリストを多数育成してきた。現在は全日本柔道連盟国際委員長として国際活動を牽引し、視覚障害者柔道連盟強化委員長として2028年ロサンゼルス・パラリンピックを見据えた選手育成にも尽力している。

入賞

五十音順

赤間 賢人

東海大学
男子バスケットボール部

男子サッカー部

新潟医療福祉大学

大城 寛汰

岡山大学
体育会ウェイトトレーニング部

葛西 春香

早稲田大学
スキー部

東海大学バスケットボール部(男子)/ 日本体育大学バスケットボール部(女子)

東海大学、日本体育大学

前田 心咲

関西学院大学
体育会 バスケットボール部女子

村司 翔平

関西学院大学
硬式野球部

森 菜々美

環太平洋大学
チアリーディング部

渡部 祐哉

環太平洋大学
男子剣道部

少林寺拳法部

愛知大学

漕艇部

仙台大学

竹口 清一

甲南大学
サッカー部

甲南大学体育会サッカー部監督。130名を超える部員を統括し、技術指導から戦術構築、人材育成まで幅広く携わる。全国大会出場や天皇杯での快進撃を導き、学生の主体性と組織力を育む指導が高く評価されている。日々の対話を重視し、部員一人ひとりの成長に寄り添う姿勢は、チーム全体に前向きな空気をもたらしている。甲南のサッカーを通じて、人の心を動かす力を持ち、学生・関係者から厚い信頼を集める存在である。

竹澤 稔裕

順天堂大学
柔道部

指導者、審判員として柔道界に欠かせぬ人物である。今年は全日本学生柔道体重別優勝大会で順天堂大学を13年ぶりに団体ベスト8に導き、デフリンピックで日本代表コーチとして7つのメダル獲得に貢献した。大学指導者としては人間形成も大切にし、学生に国際的感覚を身に付けてもらおうと海外選手との交流を積極的に行う。日本人唯一の国際柔道連盟指名審判員で、2025年世界柔道でファイナルラウンドの審判員にも選出された。

長崎 隆志

駒澤大学
体育会卓球部

大学事務職員と監督を兼任する異色の指導者。「自主性・主体性」を重んじる指導でチームをリーグ戦全勝優勝・1部復帰へと導いた。学生に上級救命資格を取得させ、地域卓球教室との交流を深めるなど、競技力の向上と学生の人間力・社会性の育成を両立させる手腕は秀逸である。

早崎 義晃

関西学院大学
体育会サッカー部

総理大臣杯準優勝・関西リーグ優勝に導き、選手の競技力向上と人間力育成に尽力。個別ミーティングを通じ、スポーツと学業の両立を支援するだけでなく進路や生活面まで細やかな指導を行い、質の高い教育環境を整備。選手のメンタル・コンディションを支え、持続可能な強化環境を構築している。



COACH OF THE YEAR

コーチ・オブ・ザ・イヤー

競技力向上と人材育成に尽力し、他の指導者の模範となる優れた取組や実績を残した指導者を表彰する。



BEST SUPPORT OF THE YEAR DUAL CAREER

デュアルキャリア形成支援優秀取組賞

運動部学生に対する学業充実・キャリア形成支援に関する先進的な取組を表彰する。

優秀賞

五十音順



矢野 智彦

環太平洋大学
女子柔道部

「理論」と「実践」を融合させ、12年ぶりの全国二冠と、ユニバーシティゲームズ金・銀メダリスト（前田凜・棕木美希）輩出を達成した名将。常に上位を維持する強豪を、スポーツ科学に基づく安全管理と強化で進化させた。学科長として学業両立もシステム化し、社会で活躍する人材を育成。アカデミックな知見と現場の情熱で、世界での勝利と安全を両立させた指導は、大学スポーツの革新的モデルである。



山本 哲洋

関西大学
体育会テニス部

コーチ就任時は下部だったチームを関西大学リーグ1部で男子8回、女子7回優勝する強豪校に引き上げた。25年には創部104年目にして全日本大学王座決定試合で女子初優勝の快挙を成した。全日本インカレでは女子シングルス初優勝者を、男子では86年ぶりの王者を輩出するなど顕著な成果を挙げた。公認S級エリートコーチとして確かなコーチング力と学生目線に立った対話重視の指導法で社会に貢献できる人材育成を行っている。

入賞

五十音順

有賀 誠司

東海大学
ボディビル部

池本 聡

びわこ成蹊スポーツ大学
女子ハンドボール部

揖斐 祐治

岐阜協立大学
駅伝部

大越 正大

東海大学
男子・女子ライフセービングクラブ

小泉 友哉

中央大学
準硬式野球部

太居 建人

中京学院大学
軟式野球部

山下 祐史

八戸学院大学
ラグビー部

横井 光治

大阪体育大学
硬式野球部（女子）

優秀賞

五十音順



関西学院大学

競技スポーツ局(KGAD)
『「Academic Eligibility for KG athletes
(関西学院大学体育会員に関する
対外試合出場のための資格制度)」に
よる学業とスポーツの両立』

「Academic Eligibility for KG athletes(関西学院大学体育会員に関する対外試合出場のための資格制度)」の整備・運用を実施している。単位取得を支援する包括的な体制をとり、学業とスポーツ活動の両立というデュアルキャリアを達成している。



岐阜協立大学

キャリア支援課・スポーツ文化振興室
『Standing Together キャリア支援
プロジェクト
～アスリート学生の進路を守る
体系的支援プログラム～』

岐阜協立大学はユニバーシティ・アイデンティティとして掲げる「協立=ともに立ち向かう」の理念のもと、アスリート学生285名に特化した専用キャリアガイダンスと、1年次から4年次まで切れ目のない体系的キャリア支援により、実就職率96.4%を達成した。就職エージェント問題への先進的対策と、産学官連携による対面・双方向プログラムを通じ、競技とキャリアを両立する真のデュアルキャリア形成を支援している。

入賞

五十音順

環太平洋大学

サッカー部
『不登校支援を通じた体育会
デュアルキャリア形成支援』

立命館大学体育会 バドミントン部

いばりつバドミントンクラブ
『中学校部活動の地域展開
(大学拠点化方式)』

名古屋学院大学

学生自治会・学生サポートセンター
『リーダーズ研修会』

新潟医療福祉大学

アスレティックデパートメント 人材育成部
『NHUW ASS(アスリートサポートシステム)
～学生アスリート教養プログラムの展開～』

羽衣国際大学

スポーツ振興課
『デュアルキャリアを支える
実践的学修モデル「競技スポーツ副専攻」』

八戸学院大学

男女ラグビー部、自転車競技部、
スピードスケート部
『社会人基礎力養成研修
(DC ONLINE for TEAM)』

福岡大学

野球部
『スカラーアスリート賞制定及び実施』

福岡工業大学

学生課 課外活動支援担当
『正課外活動教育「FIT-FIELD」』

佛教大学

学生支援部学生支援課
『①全本部団体合同
UNIVAS社会人基礎力養成研修
②全公認課外活動団体
UNIVASリーダーズ研修』



BEST SUPPORT OF THE YEAR SAFETY & SECURITY

安全安心環境構築優秀取組賞

運動部学生の安全安心環境構築に関する先進的な取組を表彰する。

優秀賞

五十音順



環太平洋大学

体育会事務局
『「科学的予防（熱中症）」と
「自律的規律（コンプラ）」の
統合アプローチの
ハイブリッドモデル』

ギネス認定の「世界最長傾斜走路」を含む専用パークを整備し、交通事故や接触リスクを物理的に排除した。衝撃を抑える特殊路面により、故障リスクを最小化しつつ日本選手権入賞者を輩出するなど、安全と強化の両立を実証。また地域遺産「ピーコック噴水」を移設し、精神的な安らぎも提供している。全体育会学生から地域住民まで、ハード・ソフト両面からすべての挑戦者を守り育む「世界一安全なスポーツ環境」を構築している。



岐阜協立大学

スポーツ局、スポーツ文化振興室、硬式野球部、陸上競技部、ボート部、サッカー部、男子バレーボール部、女子バレーボール部、女子ソフトボール部、駅伝部
『指導者を起点に学生を守る安全安心環境構築
— UNIVAS公式研修を必須化した運動部ガバナンスモデル —』

UNIVAS公式の講師派遣型コンプライアンス研修を活用し、指導者を起点とした安全安心環境づくりに取り組んでいる。学内外の指導者に研修受講を義務付け、その内容を学生・保護者にも共有することで、透明性の高い運動部運営を実現。学生が安心して競技に打ち込める大学スポーツ環境のモデル構築を進めている。



明治国際医療大学

アスリートサポートセンター
『本学アスリートに対する包括的サポートによる安全安心環境の構築
～スポーツ現場と医療との中間的役割としての取り組み～』

当センターは大学教職員が持ちうるスキルを結集し、運動競技部に所属するアスリートが安心して競技生活を送れることに少しでも寄与したいという想いで設立され、次年度で10年目となる。アスリートと向き合う最前線のチームとして、その声に耳を傾けながら、これからもアスリートの心身に対するサポートを全力で取り組み続けることが期待される。

入賞

五十音順

環太平洋大学

体育会陸上競技部
『世界一の「傾斜走路」と復活の「ピーコック噴水」
～トップアスリートの身体と心を支える
「聖地」の創出～』

全日本大学バレーボール連盟

『ビーチバレージャパンカレッジ2025における、
熱中症予防ゼロを目指した安全対策』

中央大学

ライフセービング部
『一次救命の普及活動』

日本オリエンテーリング協会

日本学生オリエンテーリング連盟
『競技に伴うリスク低減のための安全対策資料』

福岡大学

スポーツ科学部スポーツ医学研究室
『地域と大学がともに築く、安心・安全なスポーツの未来』



BEST SUPPORT OF THE YEAR EVENT / MATCH PROMOTION

大学スポーツプロモート優秀取組賞

大学スポーツの普及や活性化、大会等における集客・応援促進のための先進的な取組を表彰する。

優秀賞

五十音順



環太平洋大学

ダンス部
『IPUダンスアカデミー
（総合型地域スポーツクラブ）の
指導・運営を通じた大学スポーツ
認知拡大と人材循環モデル』

2017年にスタートした、大学を拠点とする総合型地域スポーツクラブ。大学周辺地域の幼児から高校生を対象にダンス・チアダンスの育成を行い、ダンス部部員が指導・運営・発信を担う循環型モデルを構築している。地域行事や大会を通じて大学スポーツの認知拡大と応援促進を図り、小・中学生選手クラスを中四国大会・日本選手権大会優勝、世界選手権大会日本代表へと導くなどの競技実績も有する。



大東文化大学

スポーツ振興センター
『～推し活文化をクラブ運営資金へ
プレイヤーズタオルで集客、応援促進～』

大東文化学園では博報堂と協賛契約を締結し、売上の一部をクラブ運営費用として活用できる運動部別オンラインショップ「My Megaphone!」を3クラブで段階的にオープンした。各クラブ共通する人気商品が「プレイヤー別（選手別）タオル」であり、クラブのSNS、公式ホームページと連携し、主要試合での応援ムードを盛り上げ、一体感や結束力を醸成する狙いのもと、販売促進を実施した。



東洋大学

鉄鉋の響応援プロジェクトチーム
『東洋大学鉄鉋の響応援プロジェクト
～導け箱根の頂点へ～』

本プロジェクトは、陸上競技部長距離部門を軸に「資金充実」「応援文化」「運営持続力」の3柱を強化する革新的試みである。寄付文化の醸成による人材育成への社会参画、学生主体の「鉄鉋デイズ」によるデジタル併用の応援スタイル確立、そして部署横断的な連携とDX化による運営基盤の構築を達成した。選手・大学・企業が共に成長する新たなモデルを提示し、東洋大学のスポーツプロモート力を次なるステージへと引き上げた。



徳島文理大学

『お子様の成長と未来への可能性を
広げる「マルチスポーツ」にチャレンジ!!
「徳島文理大学
キッズスポーツフェスタ2025
～マルチスポーツ体験会～』

マルチスポーツとは、複数のスポーツを経験することです。子ども達のスポーツに対する興味関心や将来の選択肢の幅を広げるなどプラスの面が注目されている。今回は、小学校1～3年生を対象に、サッカー、野球、バスケットボールの3種目を体験する内容となっている。県内の3つのプロスポーツ団体とも連携して、未経験の児童もトップ指導者の手ほどきを受け、楽しく、安心して各種スポーツを体験することができる。

入賞

五十音順

鹿屋体育大学

スポーツアライアンス室
『大学スポーツ運営力強化のための
実践型研修制度
～Blue Winds学生マネジメント
スタッフ育成セミナー～』

関西学院大学

体育会アイスホッケー部
『クロスアイス大会開催・
初心者ホッケー体験会』

関西学院大学

体育会ボート部
『留学生アスリート受け入れを通じた
大学ボート競技の魅力発信』

関西学院大学

体育会学生本部
『第48回総合関関戦における
広報・応援文化醸成施策の推進』

環太平洋大学

体育会サッカー部
『第15回IPUサッカーフェスティバル』

環太平洋大学

体育会所属学生、アドミッションセンター
『IPU SPORTS FASHION SHOW』

岐阜協立大学

サッカー部、スポーツ文化振興室
『Campus Open Sports
—大学を地域のピッチに変えるスポーツ
プロモート—』

静岡産業大学

大学事務局スポーツ振興部
『強化スポーツクラブ
「トップアスリート部」の創設
による広報PR活動の強化』

順天堂大学

蹴球部 他
『Juntendo Job Trial (JJT)』

成蹊大学

水泳部水球班
『武蔵野市を中心とする小中学生を対象
とした、水球教室、土曜教室の実施』

中京大学

学生広報スタッフ「ライト」
『学生広報スタッフ「ライト」による
大学スポーツ誌「Beyond」の制作』

日本体育大学

学友会ラクロス部
『HERO
～大学ラクロスの未来を拓く
共創プロジェクト～』



BEST SUPPORT OF THE YEAR ADMINISTRATION

大学スポーツ組織運営優秀取組賞

大学や競技団体においてスポーツ分野を一体的に統括する部局等による多様な取組によって大学スポーツへの積極的な関与を行い、組織ガバナンスの強化を図った大学及び競技団体を表彰する。

優秀賞

五十音順



熊本学園大学
スポーツ振興センター

今年度、KUMAGAKUスポーツは大学スポーツの新たなスタンダード構築へ向け体制を刷新した。「学修の保証」「環境整備」「地域貢献」を推進し、学生が安心して活動できる基盤を確立。その結果、学業と競技の両立が進み、競技力指標は前年度比70%増を達成した。世界・全国規模の競技会での活躍に加え、地域連携も拡大。文武両道の実現と社会貢献を果たしている。



新潟医療福祉大学
スポーツ振興室

スポーツ振興室は、本学における強化スポーツを一体的に統括・推進する組織として確立。競技力強化・運営管理・人材育成・広報。ブランディングを総合的にコーディネートし、アスレティックデパートメントの中核として機能している。教職協働による体制のもと、地域・企業・行政と連携し、社会的価値の創出を実現している。



日本体育大学
アスレティック
デパートメント

①入学前教育、②トップアスリート・デュアルキャリア支援、③マネジメントスタッフ人材育成、④組織ガバナンス推進とセーフスポーツの質向上の4つの柱をもとに、学生と指導者を包括的に支援する体制を整備している。専門機関と連携した研修により指導者の質と安全な環境づくりを強化し、実践コミュニティの形成や指導観の変容、学生との相互信頼の深化といった成果が確認されている。

入賞

五十音順

関西大学
体育会本部

環太平洋大学
体育会事務局

岐阜協立大学
スポーツ文化振興室

全日本学生バドミントン連盟
全日本学生バドミントン連盟

中京学院大学
大学クラブ

長崎国際大学
スポーツ支援・振興室



PARA ATHLETE OF THE YEAR

パラアスリート・オブ・ザ・イヤー

優秀な学業成績及び競技成績や運動部活動等への貢献を残して文武両道を実践する他の学生の模範となる個人を表彰する。

優秀賞

五十音順



加藤 志希
関東学院大学
バスケットボール部

東京2025デフリンピックに女子バスケットボール日本代表選手として出場し、チームの金メダル獲得に貢献した。特に準決勝では、持ち味であるスリーポイントシュートを2本決め、日本に流れを引き寄せて勝利へと導いた。日頃から地域の小学校や公共施設において講演会を実施するなど、デフスポーツおよびデフバスケットボールの認知度向上を目的とした活動にも取り組んでいる。



加藤 志野
関東学院大学
バスケットボール部

女子バスケットボール日本代表選手に選出され、東京2025デフリンピックにおいて、チームの金メダル獲得に貢献した。大会では、チームの主力選出として活躍し、攻守にわたるキープレイヤーとなった。地域においても、日頃から聴覚障害やデフスポーツについて紹介する機会を設け、障害理解や多様性への関心を高めることを意識して活動している。



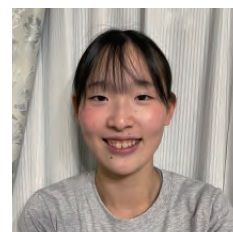
久住 文華
日本経済大学
女子サッカー部

デフサッカー女子日本代表として世界の舞台で活躍し続け、今年は初めての日本開催となった東京2025デフリンピックにも出場した。この舞台に立つために代表活動が続けながらも、学生として学業を怠らずに修学管理を行い、文武両道を突き進んできた。体育会系女子サッカー部にも所属し、他の部員と切磋琢磨しながら創部4年目にして初の全日本インカレ出場を決めた。



近藤 薫
岐阜協立大学
水泳部

「人間力なくして競技力向上なし。意思あるところに道は開ける」を信条とし、記録に残るだけでなく記憶に残る選手を目指してTeam薫を立ち上げた。大学や所属、競技を越えた交流と支援により、スポーツ医科学を活用したトレーニングと4年間の動作分析の集大成として、ワールドシリーズ出場と国内大会3種目で金メダルを獲得した。そして健常者と障がい者の壁を壊し、明るく豊かで活力に溢れる社会の実現を目指し挑戦を続けている。



佐伯 菜々美
帝京大学
陸上競技部

先天性の脳性まひにより両手足に動かしにくさやこわばりがある。日常では足に装具をつけ生活しており、競技では「T35」という「両下肢に中等度の障害があるクラス」に属している。T35 女子の100m、400m 走幅跳の日本記録保持者である。2025年春から帝京大学陸上競技部に移籍した。競技活動だけでなく、脳性麻痺立位周知ためにパラスポーツのボランティア活動やパラ陸上教室に障害当事者として積極的に参加している。



豊里 凜
九州産業大学
バスケットボール部(女子)

生まれつき聴覚障害(左右聴力100dB)である。小学2年次にバスケットボール始め、高校1年からデフバスケットボールを始めた。バスケットボールの技術向上のため、地元を離れ、環境が整っている福岡の大学へ進学し、日々の練習に精進している。競技におけるコミュニケーションなど大変だと感じることもあったが、目標の「東京2025デフリンピック」出場および金メダル獲得を果たした。



PARA ATHLETE OF THE YEAR

パラアスリート・オブ・ザ・イヤー

優秀な学業成績及び競技成績や運動部活動等への貢献を残して文武両道を実践する他の学生の模範となる個人を表彰する。

優秀賞

五十音順



羽田 まりな

九州共立大学
女子バスケットボール部

九州共立大学女子バスケットボール部に所属している。デフバスケットボール女子日本代表として東京2025デフリンピックに出場し、日本女子史上初となる金メダル獲得に貢献した。スターティングメンバーとして決勝戦にも出場し、勝負所での得点や安定したディフェンスでチームを牽引。仲間を大切にし、感謝の気持ちを忘れず日々の活動に取り組んでいる。その姿勢と実績は、多くの学生に勇気と希望を与えている。



村田 悠祐

仙台大学
陸上競技部・スキー部

冬季・夏季デフリンピック両大会で活躍する二刀流アスリートである。冬季大会でアルペンスキー銀メダル、夏季大会で陸上男子4×400mリレー日本勢初のコメダルに貢献。陸上・スキー両競技で仲間と練習環境を作り上げ、デフスポーツの魅力を送信してきた。障害の有無に関わらずスポーツを楽しむ文化形成にも寄与し、挑戦を続ける姿勢は多くの人々に夢と希望を届けている。次の目標として、夏季と冬季のダブル金メダル獲得を掲げる。



森 健司

立命館大学
体育会空手道部(新生)

小学3年次に空手を始め、聞こえる人たちに混ざって稽古を続けてきた。中学2年生でデフ空手に出会い、二度目の出場となった東京2025デフリンピックでは形で金メダル獲得した。この世界一を目指す過程で得た「心技体」の学びを、ともに成長する仲間たちへ共有し、スポーツや空手の魅力・価値を更に高める活動を行っている。また、競技者としての課題、学生としての課題、それぞれに取り組む、文武両道を目指している。

入賞

五十音順

佐々木 昂

広島経済大学
陸上競技部

豊田 響心

環太平洋大学
陸上競技部



WOMAN OF THE YEAR

ウーマン・オブ・ザ・イヤー

優秀な学業成績及び競技成績や運動部活動等への貢献を残して文武両道を実践する他の学生の模範となる個人を表彰する。

優秀賞

五十音順



浅田 真奈

朝日大学
体育会卓球部

体育会卓球部の女子主将としてチームを牽引し、チーム力向上や競技力向上に尽力した。また、FISUワールドユニバーシティゲームズ女子団体で金メダル獲得という成果を取めた。実践的な指導力を身につけるため教職課程を履修する他、地域のスポーツ振興にも積極的に関わり、卓球教室や岐阜県内の少年団、中学校、高等学校、特別支援学校での出前指導にボランティアとして参加する等、文武ともに他の模範となる行動を示している。



岡根 和奏

甲南大学
女子陸上競技部

競技と学業を両立し、陸上短距離では日本トップレベルの選手が多数所属する女子陸上競技部を率いた。2年間主将を務め、主体性を尊重しながら勝てるチームを築き、リレーや個人種目で優勝した。経営学の知識を活かした運営力と、地域イベントや陸上教室での社会貢献で大学の魅力を発信。競技力・組織力・発信力を兼ね備えた、体育会を牽引する存在であり、競技と学業の両立を体現する模範的存在である。



渋谷 樹里

早稲田大学
アーチェリー部

高校時代には、全国高校選抜大会優勝や世界ユース選手権大会団体優勝を果たし、早稲田大学へ入学。大学では、3年次6月より1年間女子主将を務め、チームを牽引した。主将として最後の大会である王座決定戦では、創部初となる優勝を達成し、チームに大きく貢献した。学業面においては、体育各部に所属する学生のうちGPA上位10%に与えられる早稲田アスリートプログラム年間優秀学業成績個人賞を3年連続で受賞している。



生内 アンジェリカ 幸

環太平洋大学
女子硬式野球部

女子硬式野球部主将としてチームをまとめ、初の明治神宮野球場での決勝戦開催となった第15回全日本大学女子硬式野球選手権記念大会において優勝、2連覇を果たした。また、第4回BFA女子野球アジアカップにおいて日本代表に選出され、6試合に出場し打率5割7分1分・7打点をマークし活躍した。将来的に指導者を目指しており、卒業時に中学校・高等学校1種教員免許状(英語)を取得見込みである。



鈴木 杏梨

早稲田大学
水泳部水球部門

水泳部水球部門の主将。同期が一人もいないという環境で、1年次よりチームの主力として活動し、今季は主将として全員が主体的に考えるチーム作りを牽引。高いレベルでの文武両道を志し、教職課程を履修しながらGPA3.79を維持し、2年連続で学内の文武両道表彰を受賞した。日々の丁寧な準備と思考を大切に、誠実な行動で文武両道を体現する。



田島 愛理

順天堂大学
陸上競技部

大学3年生になった2025年度、飛躍的に競技成績が向上し、女子1500mでは日本学生新記録を樹立した。また、先輩の卒業をきっかけにチームの中心としての自覚が芽生え、何事にも積極的にチャレンジするようになった。真面目な性格で、朝早く起きて勉強するなど学業に取り組む姿勢も素晴らしく、周囲からの信頼が厚い選手である。

優秀賞

五十音順



中山 うらら

関西学院大学
体育会
スケート部 スピード部門

総主将として卓越したリーダーシップを発揮し、日本学生選手権にて男女とも総合優勝に導くなど、約40名の体育会スケート部をまとめ上げた。学業面でも学部トップクラスの成績を維持し、商学系の公的資格も取得した。同時に、地域のスケート体験教室やスポンサー獲得活動にも尽力し、競技外でも積極的に社会貢献を行っている。



藤波 朱理

日本体育大学
レスリング部

日本体育大学で競技に取り組みながら、パリ五輪や世界選手権での金メダルなど、数多くの大会で成果を出してきた。その中で、日々の練習では基本を大切にし、仲間との支え合いを意識して行動している。また、「藤波朱理杯」を通じて子どもたちへ競技の魅力を伝える活動にも取り組み、大学生活を通して競技力と社会への貢献の両面で成長してきた。



三浦 由唯菜

札幌国際大学
氷上部カーリング部門

氷上部カーリング部門の女子主将として国際大会で歴史的な競技成績を修めた。また、世界ジュニア選手権3年連続メダル獲得、冬季ワールドユニバーシティゲームズではリーダーとして日本勢初の優勝を果たした。長期の海外遠征の中でも優秀な学業成績を修め、地域の一般向け体験会やジュニア選手への指導にも取り組んだ。他にも大学サポートセンターの学生スタッフとして障害を抱える学生を支援するなど、周囲の模範となっている。



山口 花音

関西大学
体育会テニス部

団体初の日本一を成し遂げたWUG金メダル主将。昨年、全日本大学王座決定試合決勝で敗れ「必ずチームでも日本一になる」と決意。部員一人一人とのコミュニケーションを通じてチームとして戦う集団へと変え、悲願の日本一を達成した。学業では、統計学を活用した試合分析に加え、チームマネジメントを他クラブ主将から学び、活かした。地域のテニス教室では指導計画から携わり、わかりやすい指導でファン作りに貢献した。

入賞

五十音順

井田 希々佳

東海大学
女子ライフセービングクラブ

井上 果音

明治国際医療大学
女子柔道部

内田 優

福岡大学
なぎなた部

大島 かれん

中京大学
テコンドー

岡 あゆみ

岡山大学
体育会ウェイトトレーニング部

小川 舞

新潟医療福祉大学
女子硬式野球部

葛西 優奈

早稲田大学
スキー部

柏崎 咲和

大阪体育大学
硬式野球部(女子)

上舘 美乃

仙台大学
女子硬式野球部

齋藤 はなみ

山梨学院大学
女子ホッケー部

佐藤 美咲

環太平洋大学
女子硬式野球部

柴田 莉湖

神戸学院大学
バレーボール部(女子)

鈴木 堇

帝京平成大学
女子サッカー部

鈴木 佑梨

昭和女子大学
スポーツチャンバラサークル碧剣会

鈴木 莉緒

青山学院大学
体育会水泳部

高岡 滯

東洋大学
サッカー部女子部門

高谷 愛里咲

周南公立大学
バスケットボール

中島 星南

東海大学
女子ライフセービングクラブ

中村 柚音

中京学院大学
女子陸上競技部

春山 愛

朝日大学
体育会ゴルフ部

比嘉 楓

大阪体育大学
ハンドボール部(女子)

廣戸 桜優

東海大学
体育会女子ライフセービングクラブ

前田 凜

環太平洋大学
女子柔道部

松本 彩佳

帝京平成大学
チアダンス部

真弓 心

仙台大学
女子硬式野球部

棕木 美希

環太平洋大学
体育学部

山崎 葵

筑波大学
体育会オリエンテーリング部

山崎 陽茉理

帝京平成大学
女子柔道部

山本 一花

大阪体育大学
硬式野球部(女子)

若尾 日奈子

九州産業大学
水泳部(フィンスイミング)



MAN OF THE YEAR

マン・オブ・ザ・イヤー

優秀な学業成績及び競技成績や運動部活動等への貢献を残して文武両道を実践する他の学生の模範となる個人を表彰する。

優秀賞		五十音順
	阿部 竜希 順天堂大学 陸上競技部	陸上競技110mハードルにおいて、大学4年間で日本屈指の選手に成長した。大学生のオリンピックとも称されるワールドユニバーシティゲームズでは金メダルを獲得。大学3年の途中からは陸上競技部の主将も務め、日本インカレでチームを5年連続33回目の優勝に導くなど、類まれなるリーダーシップも発揮した。トップアスリートでありながら、学業面を重要視し、大学4年間を通じて高いGPAを保っている。
	逢坂 草太郎 東洋大学 陸上競技部長距離部門	大学2年生ながら、2025日本学生陸上競技個人選手権大会、天皇賜盃第94回日本学生陸上競技対校選手権で男子10000m競歩優勝した。また、第62回全日本競歩高畠大会一般男子ハーフマラソン競歩でも頂点に立った。そして2028年のロサンゼルス五輪等、卒業後の活躍も期待されている。
	小川 大輝 東洋大学 陸上競技部短距離部門	2025世界陸上競技選手権東京大会では日本代表として400mハードルに出場した。また、チームでは副主将として、主将と共にチームを牽引。2025インカレでは男子400mハードルにおいては優勝という成績に貢献した。そして同部の4x400mリレーにおいては、部員を鼓舞し学生記録を更新しての3連覇に貢献した。
	柴崎 太一 東海大学 男子ライフセービングクラブ	東海大学 男子ライフセービングクラブにて主将を務めており、チームとして日本一を目指して活動している。大学生活では、教育とスポーツに興味を持ち、学校教育・社会教育について学びつつ、運動生理学の八田ゼミに所属して、回復系の研究に取り組んでいる。
	高橋 海大 日本体育大学 レスリング部	アジア選手権、世界選手権で優勝して得た経験を活かし、4年次には総合主将として、後輩の指導や練習環境づくりに取り組み、チーム全体が前向きになれる雰囲気づくりを心がけた。また、二度の大きな怪我を経験したことで、学び続けることや仲間の支えの大切さを実感し、復帰後はその経験をチームに還元してきた。これらの経験から、競技・学業・社会活動の全てにおいて成長できた大学生活を送っている。
	高松 紳志 福井工業大学 硬式野球部	硬式野球部主将としてスローガン「氣」を掲げ、「守って勝つ」チームづくりを実践した。秋季リーグでの2試合連続コールド負けの後、チームの結束力強化に尽力し、翌年の全国大会では準優勝、そして敢闘賞も受賞した。学業面では高水準のGPAを維持し、履修科目の約8割で「秀」と「優」を修得している。野球教室での指導に加え、地域の幼児や高齢者の体力測定にも積極的に関わり、安全管理や丁寧な対応で信頼を集めている。
	棚内 陽向 専修大学 相撲部	全国学生相撲個人体重別選手権75kg未満級において、創部以来初となる2年連続優勝を果たした。普段から部員一人一人の意見に耳を傾け、全員が最大限の力を発揮できる環境づくりに尽力し、チームの結束力向上にも大きく貢献している。また、教職課程を履修しながら学業と競技を高いレベルで両立し、清掃活動や相撲教室など地域貢献活動にも積極的に参加し、地域との温かい交流を育む模範的な学生アスリートである。

優秀賞		五十音順
	西小野 皓大 中京大学 水泳部	世界水泳日本代表として国際舞台で戦い、200m背泳ぎで自己記録を更新。日本選手権2位、ワールドユニバーシティゲームズ銀メダルなど、着実に世界基準へと歩みを進めてきた。副主将として100名超のチームをまとめ、学業・社会連携にも主体的に挑戦。競技力と人間力を兼ね備え、次代の日本競泳を担う存在である。
	細井 響 新潟医療福祉大学 男子サッカー部	男子サッカー部主将としてチームの精神的支柱であり、名実ともに大学スポーツを代表する存在である。今年度はJ1横浜FCに特別指定選手として出場するほか、全日本大学選抜に選出されるなど高い競技実績を残してきた。主将就任後は社会貢献活動の拡充にも尽力し、地域に応援されるチーム作りを推進している。学業面でも自己管理を徹底し、文武両道を体現する姿勢は多くの学生の模範となっている。
	柳田 大輝 東洋大学 陸上競技部短距離部門	2025世界陸上競技選手権東京大会では日本代表として4x100mリレー日本代表として出場。2走を走り、入賞した。チームでは主将として、時には言いづらいこともチームメイトに伝えながら牽引。世界の経験を部員に伝えながらチーム全体の底上げを行い、2025インカレでは男子4x100mリレーにおいては3位という成績。同部の4x400mリレーにおいては、部員を鼓舞し学生記録を更新しての3連覇に貢献した。

入賞					五十音順
青山 隼也 福岡大学 ソフトボール部	東 蓮翔 青山学院大学 体育会少林寺拳法部	新井 道大 東海大学 男子柔道部	新垣 日向 東海大学 ボディビル部	泉 彩稀 甲南大学 サッカー部	
伊東 洸佑 帝京平成大学 硬式野球部	後川 由真 東海大学 男子ライフセービングクラブ	大橋 明翔 環太平洋大学 陸上競技部	勝田 成 近畿大学 体育会硬式野球部	神山 健真 中京学院大学 軟式野球部	
亀谷 駿也 京都先端科学大学 パワーリフティング部	西條 涼 びわこ成蹊スポーツ大学 男子バレーボール部	榊原 光翼 関西学院大学 体育会ハンドボール部男子	宍野 友哉 国際武道大学 バーベル部	杉江 拓馬 愛知大学 柔道部	
杉野 浩生 岡山大学 体育会ウェイトトレーニング部	高橋 隼人 愛知学院大学 フライングディスク部	田中 翔 九州産業大学 準硬式野球部	垂井 祐志 四国学院大学 陸上競技部	坪川 龍生 明治大学 体育同好会連合会 スポーツチャンバラ碧剣会	
花本 俊輝 日本体育大学 ボディビル・ パワーリフティング部	藤原 理希 岐阜協立大学 陸上競技部	前田 陽向 環太平洋大学 陸上競技部	三輪 圭摩 帝京平成大学 硬式野球部	守 祐陽 大東文化大学 陸上競技部短距離 ブロック	